

志賀直哉旧居 奈良学園公開文化講座(2025年後期)

第81回《古梅園の墨づくり》

2025年10月4日(土) 13:30~15:30 講師 竹住享 (株)古梅園 取締役営業部長

大陸から伝えられた墨は、我が国の文化の発展と共にその需要がますます高まり、日本国内でも大量に生産するようになりました。畿内を中心に西日本の主要な地域で墨の生産が行われていましたが、室町末期の頃墨づくりの中心はこの奈良となり、江戸時代からこれまで多くの墨匠が活躍し、たくさんの墨が作られてきました。室町末期に創業した古梅園も約450年の間、昔と変わらない製法で墨づくりを続け今に至っております。今回はそんな弊園の墨づくりのご紹介をしながら、特徴ある墨を少し別の観点から見ながら解説を出来ればと考えております。

第82回《グローバル時代とはなんだろう?》

2025年10月23日(木) 13:30~15:30 講師 オチャンテ・カルロス 奈良学園大学人間教育学部准教授

南米ペルーから日本に来て、今年で30年になります。これまで文化的・言語的なさまざまな体験を通して、日本で不自由のない生活を送ってきました。これらの体験をもとに、異国で生活することや共生を目指すことの意義について語ります。現在は奈良学園大学にて、外国語理解や異文化コミュニケーションを担当しています。その立場から、さまざまな視点で現代のグローバル社会についてお話しします。また、母国の文化紹介や民族楽器の演奏も行います。

第83回《江戸時代の和算文化》

2025年11月12日(水) 13:30~15:30 講師 田中紀子 奈良学園大学人間教育学部准教授

江戸時代の日本では、「塵劫記」を始めとして武士も庶民も数学を学び、各地で「流派」が生まれ、神社仏閣に算額が奉納されました。江戸時代の人々はどのようにして和算を学んでいたのでしょうか。また数式はどのように書いたのでしょうか。「至誠贅化流」の本から和算の学び方を、また関孝和から始まった関流や、関西の流派である宅間流の数式の書き方について紹介します。

第84回《「源氏物語」を読む——帚木巻(2)》

2025年11月26日(水) 13:30~15:30 講師 鍵本有理 奈良学園大学人間教育学部准教授

日本の古典文学代表作とされる『源氏物語』。前期に引き続き、「帚木巻」の後半部分から、名場面を取り上げます。男性貴族たちの女性談議(「雨夜の品定め」といわれます)を聞いた光源氏は、中流の女性に興味を持つようになります。その翌日、紀伊の守の邸を訪れることになり、空蝉という女性(伊予介の妻)とのほかない逢瀬のひと時を過ごします。「方違え」など、当時の貴族の習慣・生活についても学びながら、原文で古典を楽しみましょう。

第85回《伝え継ぐ奈良の家庭料理・郷土料理～行事食を中心に～》

2025年12月9日(火) 13:30~15:30 講師 島村知歩 奈良佐保短期大学教授

日本には気候風土に合わせた食文化が根付いています。しかし、近年の食生活は平準化してきて地域性が薄れ、作られなくなった料理も多くあると想像します。今回は奈良県9地域で実施させていただいた聞き書きの際に地域の方が後世に残したいと出てきた料理について行事食を中心にをご紹介します。またご参加の皆様が地域や家庭のお料理も出していただきながら、食の奥深さ、楽しさを共有できる時間になればと考えています。

◆参加費	各回500円 入館料込 (奈良学園教職員、在籍者は無料です)
◆定員	各回25名(事前申込先着順) ※定員になり次第、申込を締め切ります
◆会場	志賀直哉旧居(奈良学園セミナーハウス) 奈良市高畑町1237-2
◆申込	志賀直哉旧居(0742-26-6490) (seminar@naragakuen.jp) にお申し込みください
◆主催	学校法人奈良学園志賀直哉旧居(奈良学園セミナーハウス)



志賀直哉旧居 HP